



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

第8回通常総会 開催

新しい年度を迎え、去る5月12日(土)、第8回通常総会を開催しました。今回の総会は、通常の事業報告、事業計画の承認に加え、定款変更、新理事の就任、代表権の登記変更などの承認をいただきました。

■ 事業計画

より継続的なサポートをめざし、「子どもの居場所」を本年度より週5回開くこととしました。予算的には厳しいという意見もありましたが、ともかくやってみようということで、4月より、次のような日程と費用負担について承認をいただきました。

毎週 月～金 (12時30分～16時30分)

祝日は休み (夏休み中は火・金オープン)

費用 400円/日 はじめの1ヶ月無料 昼食は持参または実費で

4～6月に開所した60日で、利用者はのべ78名、相談者22名、見学者32名でした。この期間、小学生1名、中学生2名、高校生以上2名が居場所で過ごしています。「日を選べるのがよい」、「毎日やっているのと来やすい」などの声も聞かれ、毎日開所の効果があらわれているように思います。

報徳会館の使用も今年度まで。来年度に向けて、転居先探しを始めています。適当な物件について、みなさまからの情報をお待ちしています。

■ 定款変更

発達障がいを持つ子どもたちの将来にわたる継続した支援体制作り事業の開始を目的として、第3条、第4条、第5条を変更しました。また、特定非営利活動促進法の変更に関連し、字句等を以下のように修正しました。

【第3条】この法人は、日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続



報徳今市振興会館のかまど。数年前、テレビ番組収録時に煙突を修理。その後、「ご飯を炊こう」との話もありましたが、昨年の震災でまた壊れてしまいました。

性のある、支援と学びの場を作り出すことを目的とする。

【第4条】特定非営利活動の種類に「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」を付け加えました。

【第5条】従来の事業に加え、「⑦障がいの理解および啓発に関する企画運営事業」を付け加えました。

総会の承認を受け、定款変更認証申請書を6月に日光市に提出しました。現在審査が進んでいます。

■ 新理事

栗原真佐美さんが、7月より相談支援担当の新理事として就任しました。任期は現在の理事と同じく、来年6月30日までとなります。「相談支援従事者初任者研修」レポート3ページに掲載

■ 代表権の登記変更

特定非営利活動促進法の変更にともない、代表権を有する理事以外の理事について、代表権喪失の承認をいただきました。定款変更認証後、あわせて登記変更の手続きを行う予定です。(手塚)

理事会は原則として奇数月、第1水曜日、日光市民活動支援センターで開いています。次回の開催は9月5日(水)午後7時からの予定です。会員のみなさまの参加は自由です。連絡はいりません。どうぞお気軽にご参加ください。

目次

通常総会報告	1
川むしたんけん隊	2
活動日誌	3
相談支援従事者初任者研修	3
こんな本はいかが？ (19)	4

居場所のひとこま

子どもの居場所で毎月、メニューを決めて作って食べる会。しっかり食べて、暑い夏を乗り切ろうと、7月はそうめんチャンプルーを作りました。鶏肉をいためて、水菜とそうめんと一緒にし、まぜました。冷たくないそうめん、おなかに優しくおいしかったです。



今年も見つけました 行川の生き物たち

川むしたんけん隊



「なんとなくのわ」の行事に当会が協力するようになって5年になります。今年も雨の多い春でしたが、毎年のおなじみの場所一行川中井橋上流一で5月26日(土)で行いました。この日はうす曇りで水温14度(気温23度)、水量はやや多めでしたが絶好の「たんけん」日和。他の行事が重なったため参加者の少なかったことがちょっと残念でした。去年は6月4日でしたので、比較してみましょう。●は数の多かったものです。

水質階級	今年	去年
I (きれいな水)	●カワゲラ ●ヘビトンボ プラナリア ヒラタカゲロウ サワガニ	●カワゲラ ●ヘビトンボ ヒラタカゲロウ サワガニ
II (少しきたない)	カワニナ コオニヤンマ	●コオニヤンマ ●カワニナ ヒラタドロムシ
III (きたない)	ヒル	ヒル
IV (大変きたない)	なし	なし
その他の生き物	マダラカゲロウ、シロタニカワカゲロウ、モンカゲロウ、エグリトビケラ、 オニヤンマ、カワトンボ、サナエトンボ (以上はすべて幼虫) シマドジョウ、ホトケドジョウ、ヤマメ(5cm)、カナヘビ、 ●アカハライモリ、トウキョウダルマガエル、カジカカエル(声)	

「川むしたんけん」を行ったこの場所は、今年もきれいな水質であることが生き物の種類と数からわかりました。前日に降雨があったため去年よりそれは少なめでしたが、おなじみの川虫たちの他にヤマメやドジョウなど、大型の生き物が今年もしっかり生きているのを確認できて一安心でした。

毎年、川むしたんけんを行っているこの場所には、本流とは別に周辺からの滲みだし水と思われる冷たい流れ(水温11度)が入ってきています。ここは中洲も形成されており、柳などの低木は水の勢いに負けずしっかり生えています。この場所でたくさんの生き物が見つかるというのも、いろいろな生き物が自分たちに都合の良い環境を見つけて棲み分けをしているのでしょう。圃場整備が終了した明神地区。ここの生き物たちに今後も注目していきましょう。来年もまた、同じ生き物たちに出会いたいものです。遠い日、子供であった皆さんのご参加も大歓迎。楽しいですよ。



カッ:ヌマヤーン

発達障がい支援者連絡会

発達障がいを持つ子の親、学校関係者、市民団体等が自由に意見交換を行い、今できることに取り組んでいく集まりです。

毎月第4月曜日 午後7時
日光市民活動支援センター
(都合によりお休みもありますので、参加希望の方はご連絡下さい)
どなたでも参加自由の会。気軽に
ご参加ください。(担当:西尾・白井)

☆ 活動日誌

- 4月24日(火) 通信「なんとなくのひろば」第27号 発行
 4月26日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! フレンチトースト)
 5月12日(土) 理事会(第45回) および第8回通常総会
 5月13日(日) ベリー会
 5月14日(月) 茶話会(第32回)
 5月26日(土) サイエンス・カフェ(第38回) 川むしたんけん隊
 5月26日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
 5月29日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! ペペロンチーノ)
 6月9日(土) 昔ばなし玉手箱(第6回)
 6月11日(月) 茶話会(第33回)
 6月23日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
 6月24日(日) ベリー会
 6月25日(月) 発達障がい支援者会議(第58回)
 6月26日(火) 居場所昼食会(つくって食べよう! たらこスパゲッティ)
 6月27日(水) JC 元気up' KIZUNA プロジェクト2012 打合せ
 7月5日(木) 理事会(第46回)
 7月9日(月) 茶話会(第34回)
 7月21日(土) 映画会(アンダンテ)
 7月25日(水) 発達障がい支援者会議(第59回)
 7月27日(金) 居場所昼食会(つくって食べよう! そうめんチャンプルー)
 7月28日(土) ワカモノ・フェスタ実行委員会
 7月29日(日) ベリー会
 7月29日(日) JC 元気up' KIZUNA プロジェクト2012 参加(主催:日光青年会議所)



第6回
むかしばなし玉手箱

6月9日(土) 13:30

1. おはなし ^{一筆} 書
2. カップの ^や 葉
3. 三 ^つ 折 ^り ぶちのなます
4. 妖精(おせい)のぬりぐすり
5. 孝子 ^り 桜 ^の 話
6. 豆は ^三 里 ^も どり ^も
7. 一人 ^(せんじん)

(語り 花岡 山崎)

ゆっくり時間が流れる報徳会館の大広間で、むかしばなしを聞きました(上写真:昔語りのはなおかさん 下:当日プログラム)

「相談支援従事者初任者研修」レポート

7月前半、5日間にわたって行われた標題の研修を受講しました。そこで聞いた「良い福祉支援者とは?」というたとえばなしを紹介します。

とても困っている人がいました。周囲から、役所に行くように言われて、その人は役所に行き、魚をもらいました。また、食べるものがなくなったので、役所に行き、魚をもらいました。では、福祉の支援者は何をすれば良いのでしょうか?

役所では、困った!!と言えば魚をくれますが、ある日、突然、「今までたくさんあげたから、もう、あなたにあげる魚はありません」「システムが変わったので、魚はあげられなくなりました」と、いつ、突然に断られるかわかりません。だから、福祉の支援者は、役所が魚をあげている時に、魚のつりかたを教えるのです。そして、役所から、魚がもらえなくなったら、魚の取れる場所を教えます。

役所の力だけでは限界があります。本人の力を引き出し、自分の力で生きて行けるよう支援をするのが、支援者の仕事なのです。だから、福祉支援者は、常にアンテナを立てていなくてははいけません。今は、どこに、どんな魚が、どのくらいつれるのか知ってはいけません。

とても心にのこるお話でした。まだまだ、未熟者ですが、「あなたに会えて良かった」と言われる支援者を目指そうと思います。(栗原)

子育て・親育ち茶話会

先輩ママの
経験談を聞こう!

「うちの子、ちょっと気になる?」
と、思ったら

アドバイザー:山崎 育さん

日光市こども発達支援センターつばさ園 療育指導員
言語聴覚士・特別支援教育士・日本LD学会所属

今回は、山崎育先生をアドバイザーに迎え、保護者の皆さんの茶話会を企画しました。「発達障がいの可能性がある」と告げられたときの戸惑いやその後のことなど、先輩ママの経験を知りたい、みんなで語り合ったりしてみませんか?



日時:2012年8月25日(土)
午後1:30~3:30

場所:報徳今市振興会館(今市郵便局隣り)

対象:年中~小学校低学年の保護者

定員:20名(先着順)

参加費:お茶代100円 ★託児あります(300円/人)★

主催:NPO法人なんとなくのいわ

共催:日光市

後援:日光市教育委員会

問い合わせ:NPO法人なんとなくのいわ

専用携帯:090-3227-7079



子育て・親育ちの茶話会

場所:今市報徳振興会館

日時:毎月第2月曜日(午前10時~12時)

参加費:300円(お茶代) 8月はお休み 次回は9月10日

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょ。 「一人で悩まず、みんなで!」を合い言葉に。(連絡は「なんとなくのいわ」へ 090-3227-7079)



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

こんな本はいかが？ その19

自分と子どもを放射能から守るには

世界文化社 ウラジーミル・バベンコ/ベラルーシ放射能安全研究所(ベラルーシ)

赤い表紙のかわいらしい本です。本屋さんの棚でよく見かけますので、かなり読まれているのではないのでしょうか。

1986年のチェルノブイリ原発事故によるベラルーシの放射能汚染はいまでも深刻な状態です。とくにウクライナ寄りの東南部は放射能管理強化地帯となっています。この本には、外部被ばくを最小限におさえるための放射能・放射線の基礎知識、体内に放射能を取り込むことによって起きる危険な内部被ばくを少しでも避けるための智慧、「この場所で生きるために」、ベラルーシで蓄積された、参考になる考え方、実践方法がわかりやすく述べられています。

いままで世界各地で、数多くの放射能放出事故がありました。それらの調査や反省をふまえて、国際放射線防護委員会(ICRP)などの国際機関はいくつもの勧告を出しています。過去の長期汚染の経験をふまえて、正しい知識をもち、放射能から体を守るための助言や措置を無視しないこと、強い不信や不安を持つ人たちを一方向的に切り捨ててはいけないことなどが提唱されています。

放射能汚染は地域によって大きく異なります。福島原発の爆発によって吹き上げられた放射能は、風に乗って広がり、雨粒に含まれ、地面に落ちました。放射能は均一に降下したわけではありません。さらに放射能は、その後の雨や風などで土砂がたまりやすい場所に移動しています。同じ地区でも、同じ家の敷地内でも、場所によって空間線量の高低が見られるのはそのためです。広い範囲のデータを平均して「だいじょうぶ」というかんがえは、今回の放射能汚染についてはあまりよい方法とは思えません。地域ごとに、その場で生活し、影響を受けている住民が、放射能から身を守る知識を身につけ、測定と対策に関わることができるような枠組みづくりが、これから必要とされるのではと思います。

長期にわたる放射能との闘いのために、実用的な「放射線防護文化」を身につける第一歩として、お勧めできる一冊です。(手塚)

会員について

正会員：46
賛助会員：18
団体会員：4
入会金はありません。



年会費(一口)：正会員 3,000円
賛助会員 個人 5,000円、団体 10,000円

「なんとなく」活動は会費と寄付金でまかなわれています。今年度は月～金の週5日居場所開設のため、ますます必要経費が切迫しています。会員の継続をよろしく願います。

会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願い致します。

なんとなくのへや

我が家の小さな菜園は、秋の終わりには茶色の落ち葉でいっぱいになります。降り積もった枯れ葉は微生物や植物や昆虫によって分解され、栄養豊かな土に変わります。昨年3月の原発事故はそんな自然の循環を台無しにしました。生物の働きでは浄化できない「放射能」が地面にまき散らされたのです■畑の表土と落ち葉を除去し、いままで買ったことのないカリウム合成肥料をまきました。たった数平方メートルの畑にそんな作業をやっただけで腰が痛くなり、新聞やテレビで言われている農地や山林の「除染」など、気が遠くなるような話だと思いました■7月になって、畑で育ったジャガイモ1キログラムを「日光ブランド情報発信センター放射線量測定室」(080-2676-1608)に持っていき計ってもらったところ、放射性セシウムからのガンマ線検出限界(30ベクレルくらい)以下でした。奮闘の結果なのか、セシウムのイモへの移動が少ないからなのか、化学肥料のおかげなのか…■放射能は色もにおいもなく、検出器だけが頼りです。私たちの生活範囲の放射線量を知ること、食べ物に含まれる放射能を測定することなどを通して、地域での経験を積み重ねていかなければなりません。情報が共有されることで、子どもたちや自分の健康を守り、安心の範囲を拡大していくという姿勢が大切なのではと思います。(T)